

クラブでもめごと起きちゃった 台本

3年生・・・山本T・川口T  
1年生・・・曽和T・高橋T  
ファシリテーション・・・井上享T

	(1年生は、クラブの準備もせずに、イスに座ってしゃべっている) (それを見た3年生は・・・)
山本	なあ、最近1年、なまいきやと思わへん？。
川口	そうやねん。オレもなまいきやと思っててん。
山本	クラブ始まるのに、卓球台も出さんと思わへんやろ。
川口	オレら、そんなことしたら、先輩に怒られたよなあ。
山本	そーや、私なんか、返事の仕方が悪いから言うて、にらまれたことあ んねん。
川口	そやのに、1年、遊んでばかりやん。
山本	私ら、なめられてるんかなあ。
川口	まあ、弱いからねえ。確かに、1年生、卓球うまいもんなあ。
山本	けど、先輩は、先輩やん。
川口	そらそうやわ。卓球がうまいとか、下手やとかやなくて、先輩は先輩 としてたてるのが常識や。
山本	1年に注意しようや。
川口	そうやな。1年になめられてんの、腹たつもんな。 (しゃべっている1年生のところに行って・・・)
山本	ちょっと、あんたら。1年が卓球台出すんやろ。
高橋	はあ、けど、3年の深美先輩が出してくれてるやん。
川口	おまえらがせえへんから、深美先輩がやったってんねんやろ。
曽和	もう出し終わってるやん。(切り込み目で)
山本	そういう問題ちゃうやん。深美先輩に悪いと思わへんの。
高橋	そやけど、深美先輩何も言わへんやん。
川口	その言い方、何や！
山本	あんたら、先輩やおもてへんねやろ！
曽和・高橋	(顔を見合わせて)そんなことないよなあ。
川口	その言葉づかいなんやねん。敬語使われへんのか。
高橋	すみません。氣いつけます。
山本	その言い方が腹たつねん。後輩なら後輩らしい言い方があるやろ。

曽和・高橋	(顔を見合わせて)そんなんわかりません。教えてください~。
川口	この言い方や！ 腹たつ！！ どついたらか！！
高橋	なんで、どつかれなあかんのですか。
山本	あんたら、なめてんの！
曽和	(怖そうな顔をして)なめてませ~ん。
川口	調子にのってんちゃうぞ！
高橋	調子になんか・・・
山本	うるさい！ 1年は、1年らしくしとき！
曽和・高橋	・・・
山本	深美先輩にあやまり！！
高橋	分かりました。あやまりに行きます。
川口	オレらにも謝れや！
曽和・高橋	(パーを差しだして)そ・・・そんな・・・
川口	ちゃんと筋とおせや！ あやまれ！あやまれ！
山本	あやまり！ あやまりーやーー！！！！ (川口くんと同時に)
井上享	あらあら、クラブの準備のことで、3年生の怒りが爆発。とんでもない ことになってしまいました。3年生の気持ちも分かります。でも、この 方法では、1年生に、3年生の本当の気持ちが伝わったとは言えませ んね。見ておられたフロアの皆さんはどう感じられました？(2~3意 見を拾い出してみる) なるほどね。では、どうすれば、3年生の気持ちを伝えることができ たのでしょうか。それを考えていきましょう。 高橋くん、曽和さん、もういいからこっちへおいで。(二人は深美先 輩のところで、あやまっている) まず、3年生から聴いてみましょう。まず、2人の3年生は、1年生に どんな気持ちを伝えたかったのかしら。
川口	クラブの準備は、後輩の仕事だから、ちゃんと卓球台を出したりして ほしいということです。
山本	私らも、やりました。それは、クラブの約束です。
井上享	なるほど。それは正しい意見ですね。 では、1年生の高橋くん、曽和さん。あなたたちは、さっき、どんな 気持ちになったのかしら。
高橋	(高橋、泣いている)むちゃくちゃ、こわかったです。
曽和	(両手で顔をはさんで)しばかれると思いました。

井上享 高橋	それで、、、３年生の言いたかったことは、分かったのかしら。 ３年生が、僕らのことで怒っていることは分かりました。けど、あんな言われ方して、腹たちました。(まだ、泣いている　ぐじぐじ言う)
井上享	いつまで泣いてんや、高橋！！ あっ、ごめんなさい、つい地が出てしまいました。
	そう！　そう！　そこが大切なんですね。 ３年生の言いたいことはわかったんだけど、腹が立ったんやね。高橋くん。(ゆっくりと)
高橋	(ひっくひっくしながら)その通りです。
	曽和さんは？　どうだったの？
曽和 井上享	(両手で顔をはさんで)しばかれると思いました。 つまり・・・こわただけなんやねえ。 言いたいことを、どう伝えるか。それが一番大切なんです。 ３年生が伝えたかったことは、正しいんだけど、伝え方をまちがったら、正しいことも伝わらなくなってしまう。 こういう場合は、アサーションの技法で、DESC法というものがあります。簡単に言うと『さわやかな自己主張』とでも言いましょうか。 相手を攻撃するのではなく、自分も相手の気持ちも大切に伝えます。それが『さわやかな自己主張』です。このカードを見てください。 (『繰り返す』『共感する』『選択する』『意見を言う』のカード) これは、『さわやかな自己主張』の４つのポイントです。 では、この場合を、『さわやかな自己主張』でやり直してみましよう。 まず、３年生が、１年生のところに行って、話しかけてみましょう。
	それでは、巻き戻しま～す。ポン！
全員で	キュルキュルキュルキュル(手を上にさしだして、くるくるまわる)
山本	ちょっと、あんたら。１年が卓球台出すんやろ。
高橋	はあ、けど、３年の深美先輩が出してくれてるやん。
山本	(ムカーっとくるが・・・)
井上享	山本さん、ここで、『繰り返す』ですよ。
山本	そうか(独り言)　深美先輩が出してくれてるんや。
井上享	次は、『共感する』
川口	ほんまや、もう準備できてるねえ。これから、練習はじめるね。
井上享	そして、次は『選択する』です。

山本	そやけど、１年生、それでええのんか？　３年にやってもらったままで。君たちは、しゃべってるだけなんかなあ！
高橋	それは・・・・・・・・(と言って、二人とも下を向く)
井上享	さあ、最後は、『意見を言う』ですよ。がんばれ！！
川口	深美先輩が、気をつかってやってくれてるんやけど、１年が何もせえへんというのは、君らアカンと思わへんかなあ。
曽和・高橋	(声を合わせて)あかんと思う。
山本	まだピン球やスコアが出てないから、それを出したらどうかな。
高橋	はい。分かりました。おい、曽和さん。スコア出しに行こ！
曽和	そうやね(大きくうなずいて)。出しにいこ！
川口・山本	(手を振りながら)１年、がんばれよ！！
曽和・高橋	はい！！(走って、スコアとピン球を出しに行く)
井上享	今度は、うまく、３年生の気持ちを、１年生に伝えることができましたね。松原七中では、このようにアサーションというものを、ロールプレイとして、子どもたちが取り組みます。「共感する」なんていうことは、ハードルの高いスキルなのですが、ロールプレイを通じて「共感しよう」と子どもたちが努力するわけです。フロアの皆さん、どう感じられましたか？　演じていた４人は、少なくともロールプレイの中では、良い感じで終わることができたのではないのでしょうか。自分たちが作りあげた虚構のストーリーですが、「いい感じ」という感情は刻まれるのです。すると、自分の中で、こう行動すれば、「いい感じ」になれることを体が覚えるんですね。それが、「行動」が「感じ方」これを、先ほどの深美の説明の「評価」という言葉で表すことができますが、この「評価」を好ましいものに変化することができます。これを、積み重ねていくのです。これが、ロールプレイが持つ効果的なところですし、子どもたちが自分たちで考えた台本で取り組む場合には、さらに効果的なものとなっていくわけです。どうでしょう。アサーションとロールプレイが持つ意味、理解してもらえたでしょうか。